

浦幌新聞



2020年（令和2年）
3月25日（水曜日）
発行元
特定非営利活動法人
うらほろスタイルサポート

うらほろフォーラム2020開催

2月22日（土）に、これまでとこれからのうらほろスタイルを考える「うらほろフォーラム2020」が中央公民館で、約140人の参加者のもと行われました。今年のテーマは、「学校・地域協働から学ぶ 学びあい」。子ども達が学ぶだけではなく、うらほろスタイルに携わる人も学ぶこと、つまり子どもも大人も「学びあい」とはどういうことなのかという観点から、各事業の報告がなされました。

教育大釧路校から

最初に、北海道教育大学釧路校の宮前耕史先生と学生の方から『地域をともにつくる学び』の中へ子どもも若



者・地域が育つ」という題で講演していただきました。大学とうらほろスタイルの関わりとして、バスツアーや民泊体験など「子どもの立場」、しゃっこいフェスや通楽合宿など「地域の大人の立場」、教育実習やCS行事・研修への参加など「教員の立

場」の3つからうらほろスタイルや浦幌の教育に関わるというテーマを持つていることが述べられました。

また、うらほろスタイルの大きな成果として、地域をフィールドとして多様な他者との出会いや対話を重ねることで、地域の大人やこれに関わる人達、子ども達の当事者性（主体性・協働性）を喚起することを挙げ、これは「社会に開かれた教育課程」として目指す教育の姿であることが述べられました。

学生の方からは、3つの立場から関わる中で実際にどのような学びがあったのか、が述べられ、「第一次産業についての知識やその重要性、面白さを知った」「地域に出

て、五感を使った学びを知ったり、地域の様々な人と関わったりする中で、子どもの学びはより深いものになる」「誇りを抱けるまち」を地域の方々一人ひとり作り上げている」など、3つの立場を経験した者ならではの感想があがりました。

地域の皆さんから

1つ目の活動発表として、「うらほろスタイル教育」子どもたちに伝えたいこと子どもたちから学んだこと」という題で、小中学校の授業に関わられているJAうらほろ青年部部长（当時）の砂原互さん、株式会社七協



水産の齋藤卓也さん、上浦幌中学校PTA会長の廣川健二さん、うらほろ子ども食のプロジェクトの伊場満広さん、岡田愛啓さんに登壇していただきました。

「子ども達にどうなってほしいか」について話した際は、砂原さん、齋藤さん、廣川さんからは、「普段食べるものをきちんと食べてほしい」「自分達が食べものを育てることで食への安心感・安全さを知ってもらいたい」などお話されていました。

小学生民泊の初期から関わられている岡田さんからは、次の世代を生きる子ども達に伝えることは何なのかというところをまず初めに考え、子ども達が「浦幌ってこんな素晴らしい町なんだ」と自信と誇りを持って言えるようにすることを目指して活動が始まったことなど、立ち上げ時の想いが語られました。今年度から民泊の受け入れを始めた伊場さんからは、「別の子どもが家に泊まりに来ることが自分の子

どものためにもなるのでは
 と思って引き受けた」と、民
 泊受け入れへの想いが述べ
 られました。

また、民泊やふるさと学習
 を通じた気づきや学びとし
 て、登壇者の皆さんから「町
 で子ども達に会った時に、積
 極的に話しかけてくれるよ
 うになり嬉しい」「子ども達
 の姿を見て自分の仕事の『楽
 しさ』を考えるきっかけに
 なった」「第一次産業につい
 て分からないことをたくさん
 聞いてくれる姿を見て、興
 味を持ってもらえているこ
 とに嬉しくなった」などお話
 されました。

**子どもの想い実現
 ワークショップから**

2つ目の活動発表として、
 『子どもの想い』を受け止め
 て」という題で、子どもの想
 い実現ワークショップのメ
 ンバーの方々から報告して
 いただきました。

周りの人に誘ってもらい
 参加するようになったとい
 うメンバーが多く、子どもの



想い実現ワークショップに
 参加するうちに幅広い年代・
 職業の人達と交流でき、自分
 では思いつかない色々な考
 え方を知ることができたこ
 とが嬉しく感じました。
 また、子ども達の提案に真
 剣に向き合う大人達と話す
 ことで、自分自身もより子ど
 も達の想いに向き合うよう
 になったことも語られまし
 ました。

そうした人達との関わり
 の中で、「どんな小さな意見
 でもまず出してみるように
 なった」「無い物をねだるの
 ではなく、あるものを活用す
 る考え方になった」などの変

化が見られたとのことでした。

地域おこし協力隊から

次の活動発表ではそれぞ
 れの事業に関わる地域おこ
 し協力隊から報告がなされ
 ました。

3つ目の活動発表は「高
 校生つながり発展事業」の取
 り組み」という題で、高校生
 達の自主的活動「浦幌部」の
 サポートや、「大人探究」な
 どの場を作ってきた中での、
 高校生と協力隊自身の変化
 や、事業としての成果や課
 題、今後の活動方針などが述
 べられました。

また、4つ目の活動発表と
 して、「地域おこしの3年間
 とこれから」という題で、地
 域おこし協力隊の活動を3
 月で終える小松輝さんから、
 これまでの活動や浦幌との
 関わり、地域おこし協力隊退
 任後も浦幌で行う予定の観
 光事業についての報告がな
 されました。

横山浦幌小学校から

最後に、うらほろフォーラ
 ム2020実行委員会副実
 行委員長である浦幌小学校
 の横山利幸校長の、「これか
 らの社会では子ども達一人
 ひとりが自分の良さや可能
 性を信じて、多様な人と協働
 しながら、様々な社会の変化
 を乗り越えて、豊かな人生を
 切り拓き、持続可能な社会を
 創っていく。その創り手と
 なっていくことが大切。その
 ためには学校と地域が連携・
 協働していくことが不可欠。
 今、学校では『主体的・対話



的で深い学び』が求められて
 いるが、それはすなわち、大
 人自身が主体的に生きてい
 くこと、対話的に他者と関
 わっていくこと、そして深ま
 りのある人生を送っていく
 ことが必要」という言葉で会
 が終了しました。
 (地域おこし協力隊 古賀詠
 風)

